

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年10月 3日

第99号

文責 (校長; 末永栄喜)



男女そろって優勝V 県大会へ弾み!!

今年度の雲仙市中総体駅伝競走大会(南島原市、大村市との合同開催)が、降りしきる雨の中で行われました。前日までと比べると一気に気温も下がり、雨とはいえ長距離を走るにはコンディショニング的にはまずまずだったと言えるでしょう。



雨も小康状態となった11:00女子の部がスタートしました。各学校のエース級が集う華の1区を任されたのは、前回初出場でアンカーを務めた本校のエース岩岡紗希(2年)。愚直に練習に取り組んできたその成果を本番でも発揮することができました。2位小浜中に2秒差をつけ、区間賞の走りて2区へ。

2区は、前回もこの区間を任された竹田千夏。所属するクラブチームの関係で、駅伝チームとしての練習が思うようにできなかったとはいえ、その実力を爆発させて後輩の走りに応えました。1位をキープしつつ、1区に続く区間賞の激走で2位小浜との差を9秒に広げました。

3区以降の中・後半は、駅伝初出場の1年生が続きます。まずは、松山陽咲。1位の座をキープしようと必死で走りましたが、ここですぐ後ろから追走する小浜にかわされます。それでも、トップとの差を4秒に押さえる粘走で4区 高谷日鞠へタスキを渡します。

4区高谷も陸上長距離陣として、これまで鎬を削ってきたメンバーです。トラック競技でもタイムを上げてきて上り調子の中での起用でした。本来の走りとはまではいかなかったものの、先を行く小浜をここでかわして再び先頭へ躍り出ます。区間2位の走りて小浜に7秒差をつけてアンカーへ。

勝負のアンカー5区は、エースの座を引き継ぐ将来性抜群の松本さえ。走るたびにタイムを伸ばしてきており、1年生ながら安定感も抜群です。ゴール手前1kmを切った時点で小浜中に並ばれましたが、慌てることなく自分の走りを貫き区間1位の激走で3連覇のテープを切りました。まさにサエまくった熱走でした。また、全員が試走時よりタイムを縮めた圧勝でした。

◆女子 11:00 スタート(全区間2km) 38'18"

- 1区 岩岡紗希(★7'12" ①①)
- 2区 竹田千夏(★7'24" ①①)
- 3区 松山陽咲(8'03" ②⑤)
- 4区 高谷日鞠(8'04" ①②)
- 5区 松本さえ(★7'35" ①①)



※数字は通過順位、白抜き数字は区間順位、★は区間賞

男子がスタートする頃は、気温は女子スタート時と同じ21℃でしたが、終始雨が降り続く中でのレースとなりました。その男子メンバーは前半に1,2年生を配置、後半を3年生が担うという女子とは全く逆の布陣。しかも、全員が駅伝初出場のメンバーで挑みました。



各校の猛者たちが名を連ねる1区に抜擢されたのは新進気鋭の野副 仁(1年)。真夏の走り込みで鍛え上げた持久力を発揮し、初めてとは思えない堂々とした走りて先頭集団に食らいつきました。区間3位ではあったものの、先頭の国見中に7秒差という好位置で2区の佐藤尋太(2年)へリレー。

後輩からタスキを受けた佐藤は先輩の意地を見せ、早くも首位奪還。練習通りの走りて区間賞の激走でした。逆転した

国見になんと34秒差をつけて3区へリレー。レース序盤はジンジンとする展開でした。

2年生リレーの3区は急成長株の峯 蓮人。7月、駅伝部発足時から着実にタイムを伸ばしてきた逸材です。大事な中盤をこれまた区間賞の走りて、国見との差を58秒差に広げました。ここまでは完ぺきなレース運び、作戦が的中したようです。

いよいよレースは後半、3年生へタスキが渡されます。このころ、徐々に雨足もひどくなります。中峯先生のミストシャワーとは比べものにならないほどの大粒の雨でした。コース上にも水溜りがあちこちでできる中、全身ずぶ濡れて頑張ります。

さて、後半に入る4区を任されたのは生徒会長の塚田航生。練習前半は思うようにタイムが伸びなかった塚田でしたが、中盤からタイムも徐々に上がってメンバー入り。自覚と自信に加え、責任感の強さを発揮しました。区間5位の記録で先頭を維持したまま同級生の林田蒼空へ。

5区を走る林田は、始業式の抱負で述べた目標を見事有言実行してのメンバー入り。そのほかの個人目標も次々とクリアしているノリノリの存在です。爆走とはいかないまでも、試走から大幅にタイムを短縮して首位をキープしました。

いよいよ最終6区。アンカーを任されたのは志摩大輔(3年)。周囲に流されない冷静沈着な性格が走りにも表れ、前後のチームが見えない中、自分のペースを崩さず最後まで走り抜きました。2位国見との差は27秒。前半の貯金を減らすことになりましたが、見事1位でゴールテープを切ることができました。後半を走った3年生も、直前のトラックTT(タイムトライアル)での記録を見る限り徐々に自覚も高まり、県大会での上位進出に向けて大きなカギを握りそうです。

今年度の男子レースでは、愛野中学校を上回る学校に南島原勢の躍進が目を見せました。口之津、加津佐、深江、有家、そして大村の萱瀬(全校生徒48名)も本校の前を走っています。

県大会という再度のチャンスを自らの力で勝ち取ったわけです。ここからまた新たなチャレンジの日が続きます。次こそは自分が、という思いで練習に取り組めばその価値も上がるし、お互いに切磋琢磨することでチーム力も上がることでしょう。1秒を削る厳しい練習に耐えながら頑張ってください。

今回の結果は、出走したメンバーの総合力ではなく、駅伝メンバー全員の総合力を証明したのではないかと感じます。11月7日(木)の県大会に向けて、その底上げを図ってほしいと願っています。再度、応援よろしくお祈りします。

◆男子 12:40 スタート(全区間3km) 1:04'15"

- 1区 野副 仁(10'15" ③③)
- 2区 佐藤尋太(★10'05" ①①)
- 3区 峯 蓮人(★10'30" ①①)
- 4区 塚田航生(11'16" ①⑤)
- 5区 林田蒼空(11'13" ①②)
- 6区 志摩大輔(10'56" ①③)



修学旅行 行ってきます!

「学校行事」の中の、4:旅行・集団宿泊的行事(遠足、集団宿泊訓練、修学旅行など)にあたります。中学校の学習指導要領では、この旅行・集団宿泊的行事は「いつもと違う生活環境で見聞を広め、自然や文化などに親しむ活動」が求められています。



いよいよ来週に迫った修学旅行。どの行事にも言えること、そして共通した特徴があります。それは、「全員で(が)、同じ時間・同じ空間を共有する(できる)」ことです。前述の趣旨に則って、楽しく思い出多き行事にしたいと思えます。体調管理にくれぐれも留意いただくようご家庭でもご指導ください。